

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372500102		
法人名	医療法人 渡辺医院		
事業所名	グループホーム えがおをみせて		
所在地	岡山県岡山市南区灘崎町川張853		
自己評価作成日	平成22年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372500102&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員・利用者お互いがそこに存在して、まるで本当の家族であるかのような自然な環境作りに努めている。また入居者自身の残存能力を発揮できるように支援を心掛けており、ここで暮らすことができると楽しいと思っただけたり、幸せだと感じていただけるとようなグループホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所して丸9年になるグループホームである。開所以来の入居者もいて、長い歴史の中で培ってきた介護力が生かされ、入居者は落ち着いた自然の感じで家族のように暮らしている。母体が医療法人であり、医療面においても安心が得られている。現状に満足しないというスタンスで、入居者や家族、職員からも様々な意見や提案をもらい、必要なことは改善したり採り入れる取り組みをしている。法人では、職員が誇り・夢をもって働ける場所になってほしいと願い、研修の機会を設けたり、キャリアパスを採り入れている。職員のやる気を引き出す職場の体制や取り組みが離職を防ぎ、入居者との馴染みの関係を作り、安心・安全の生活につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を明確化し、事務所内の壁に掲示し全職員が共有できるようにしている。	理念は、目につく位置に掲示されているほか、会議やカンファレンス時には言葉で伝え共有化を図っている。理念の実現に向けて年間のテーマを決め、他部門からオブザーバーを迎えるなど、目標達成に向けて取り組んでいる。	トップダウンからボトムアップに方向を変えていき、職員の意識も少しずつ向上しているとのことである。今後は、グループホーム独自の理念を作り、その実現に向けて取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(祭り等)に参加し又、法人内の行事等にも案内している。互いに交流を深められるよう努力している。	祭など地域の行事には入居者も参加し、職員は介護相談のコーナーを設け、住民の相談にもなっている。駐車場では、年に1回法人の祭りを開催しており(平成21年度は春)、近隣住民も多数参加し、毎年の楽しみごとになっている。	地域貢献を理念に掲げ、実践されています。県内でより早い時期からグループホーム運営に取り組まれていますので、その経験を生かしながら、より一層地域との交流を深めていかれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの中学校の職場体験学習や実習生の受入れを行っている。法人全体が、地域への貢献に配慮して、介護等に関する相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に行っている。	家族、包括支援センター職員、近隣地域の区長・会計担当者等が参加し、2か月に1回開催されている。グループホームの現状報告や、意見交換を行っている。	運営推進会議のメンバー構成や活用の方法を今一度検討され、サービスの向上につながるような会としていかれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で地域包括センター職員と連携をとりながら取り組んでいる。	運営推進会議に、市職員の参加を要請するなど、日ごろから連絡を密にとり協力関係を築くように取り組んでいる。包括支援センター職員との連携は良くとれており、設備の保全などにも協力をいただけるような関係の構築ができています。	市の職員の参加がなかなか得られない状況のようですが、根気強く参加を要請され、関係を構築していられることを望みます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会・研修等に参加し知識を習得し、職員の意識向上を図り、啓発を行っている。	危機管理委員会の中に身体拘束防止部会があり、拘束をしないケアに取り組んでいる。研修会で身体拘束の定義などを確認し合ったり、体験学習も採り入れている。玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアが実践されている。	見守り、寄り添いのケアの実践により、ベッド柵の使用を含め現在身体拘束は行われていませんが、今後も拘束をしないケアを実践し継続していかれることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会・研修等に参加し知識を習得し、職員の意識向上を図り、啓発を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、職員・家族に対して、活用できるよう伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	適時、同意書を頂くことにしている。またご家族に対しては十分説明ををし理解・納得できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や満足度アンケートを定期的にとり運営に行かしている。	毎年2回家族アンケートを実施し、改善に取り組んでいる。最近では「明るい環境にして」とか「居室に加湿器を設置して欲しい」等の意見が出され、改善されている。	入居者や家族の意見を真摯に受け止め、改善に取り組まれています。今後も一層のコミュニケーションをはかり、より多くの方から忌憚のない意見が得られるような環境を作っていられることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案書・要望書の受入れや法人運営調整会議の参加等で機会を作っている。	職員からの意見書・要望書を提出してもらい、毎週開催される会議で検討されている。定期的なミーティングの他課題がある時にはその都度話し合っている。リーダーは、毎月開催される法人運営会議に出席し、意見を出している。	意見を出しやすい法人になることを目標としており、日常的に意見や要望を出しやすい環境を作っている。出された意見を検討してもらえることは職員のやりがいにつながっていると感じます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力給評価シート(上司・部下相互評価)を取り入れたり、研修をおこなったり、年2回に表彰する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加・自己啓発の重要性を常日頃より推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部・外部研修の機会を多く設け、日常的に学ぶ事を推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の意見を傾聴し、ケアプランに意見を反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族等の意見を傾聴し、ケアプランに意見を反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族より十分に話しを伺い第三者の意見もとりにいれながら適切なサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を大切にし声掛等も工夫している。尊敬の念を持ち教えていただく姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員サイドのみのケアだけでなくご家族しかできないケアもあると考え家族に働きかけ共に支えあう姿勢をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前までのお付き合いのあった近所の方々や教会の方々等が来訪され楽しく談笑されたりといった面会制限を設けていない。	入居前までの近所の方が訪ねてきたり、教会に通っていた方は教会の方が訪ねてくるなど、交流が図れている。帰宅願望がある時には、家族の意見も聴きながら入居者にとってより良い方法を検討し、対応している。	本人の思いを叶えようと思っても、家族の事情や思いもあり、そのまま実践することが難しい場合もあるようですが、入居者にとってより良い方向になるような支援を検討していられることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々同士が、互いにコミュニケーションが円滑にいくよう、さりげなく支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な退去ケースがあるが、相談等あれば、いつでもお聞きしますので退去時にお伝えするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方々のペースに合わせ、ゆったりとした時間が保てるように工夫している。また本人および家族の意見を聞き尊重する姿勢をとっている。	入居者一人ひとりの生活歴から得意なことを把握し、入居者に合った方法で支援することを心掛けている。日ごろから入居者や家族の意見を聴き出すようにしており、希望には柔軟に対応している。	入居者の思いや意向を職員が共有していくためには、日々の記録にその時々の本人の言葉や職員が感じ取ったことをアセスメントして記録に残していけることが効果的な方法かと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人あるいは、家族より情報提供を受けそれらを職員が共有できるようノートに取りまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の本人の状態等を観察し、本人の意思を尊重しながら興味のあることををさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの場で、意見交換および情報交換し、本人にとってなにが今最優先されるか話し合いプランを作成。3ヶ月に1度プランの見直しを行っている。	3か月毎に計画の見直しをしている。毎日実施状況を評価し、次につなげている。カンファレンスには家族にも参加を呼び掛け、参加できない場合には事前に意見を聴き計画に反映させている。作成した計画は、説明をして同意を得ている。	日々の介護記録と評価表が別々の書式となっておりますが、同じ書式の中に組み込めれば、計画と支援の連動が意識されるし、記録にかかる時間の短縮にもなると考えます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録および申し送りノート等で情報共有と意見交換をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	適時、本人及び家族の意向を受け入れ、必要なサービスプランに生かしたり関係各機関と連絡を取り合うことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	適時、本人及び家族の意向を受け入れ、関係各機関と連絡を取り合うことに務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診および受診はもちろんのこと他科受診の付き添いも支援している。	本人・家族の希望を聴いて受診先を決めている。受診時には、職員が送迎を支援している。家族が付き添うこともある。必要に応じて往診もしてもらえる。	受診時の送迎を支援してもらえることは家族にとっては安心が得られていると考えます。今後も、情報の共有を図りながら入居者が適切な医療を受けられるような支援を継続していかれることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の体の様子や異常があれば訪問看護と連絡をとりあい相談および助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の家族をはじめ、MSW・看護師等に連絡をしたり訪問して本人の早期退院と安心して帰れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医をはじめ職員より入居時にターミナルケアについて説明をし、家族の意向を伺い同意書をいただいている。	入居時から、重度化した場合や終末期のあり方について本人・家族に説明し、意向を聴いている。その後も、医師や職員と話し合いながら、意向に沿って支援している。現在までに看取りの経験もある。	医療との連携も図られており安心が得られるグループホームであるが、今後も本人・家族の意向に沿えるよう、職員の不安や負担を軽減することを視野に入れた支援体制を整えていかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の施設内研修にて外部講師をはじめ各職員は、実践力を養うため参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。また災害時における食料品をはじめエマージェンシーキットなどを倉庫に備蓄し災害時に備えている。	年2回の避難訓練には、入居者も参加している。平成21年9月には、隣接する老健施設、消防署との合同訓練を実施し、地域住民も参加した。今年度中にスプリンクラーも設置される予定である。	周辺に民家が少ない地域ですが、災害時には地域住民の協力が得られるよう日ごろから働きかけて、体制を整えていかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持ち、声掛けを行っている。決して乱暴な言葉使いにならないように気をつけている。	入居者のすべてを受容し、共感する姿勢を取っている。言葉づかい等、入居者を尊敬して接することを心掛け、職員間で相互評価もしている。職員は、入居者の目線で穏やかに丁寧な接していた。	言葉遣いや態度など、気になる時にはその都度注意をしているとのことですが、日常的にチェックし合える方法を採り入れられることも一つの方法かと考えます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し必ず本人に聞いてみる。そして意思表示が困難な場合でも選択肢を設け自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々の意向や希望が日々の生活の中で少しでも生かされるよう支援していく姿勢を保っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好む服を第一に考え、季節や天候に合った身だしなみができるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者などが食べたいものを聞いてみることはもちろん、食事の下準備や盛り付け等に参加していただき食事の楽しみを共有している。また行事(誕生日、盆、正月)等に即した食事内容に努めている。	老健施設の管理栄養士がたてたメニューを参考にし、入居者の希望を取り入れながら献立をしている。買い物には入居者も同伴し、相談しながら材料を購入している。野菜を切ったり、洗い物をしたりと入居者一人ひとりが持てる力を発揮している。	献立を決めたり材料を選んだり入居者の希望を取り入れながら柔軟な対応ができていたと感じましたが、今後も食生活が単調にならないような支援を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問看護師や管理栄養士とも相談している。利用者の摂食状況を観察しながら、内容等も個別援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けおよび誘導を行い全介助および一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表(排尿・排便)を記入して、必要な利用者に対しては声掛・誘導等を行っている。	排泄チェック表に記入して、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けて必要な支援をしている。トイレの入り口は死角になるように配置されており、プライバシーも確保されている。	自立に必要な支援を継続していかれることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をもとに、食事内容や水分摂取など検討し実行している。また主治医や訪問看護師からも助言等を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、利用者の希望にあわせた入浴支援に努めている。毎日入浴される方もいらっしゃる。	週3~4回の入浴を支援している。毎日入浴したい場合や、夜間に入浴したい方がある場合にも柔軟に対応できる。ゆず湯など季節を感じるができるような支援もある。入浴を拒否される方には、人を変えたり言葉を変えたりの工夫をしている。	最近、入浴を嫌がる入居者が増えてきたとのことである。現在は、何とか入浴されているが、今後も個々にそった支援を継続していかれることを望みます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室などの環境づくりのため家族に情報提供及び助言を行ったり、個別にあわせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員各自が入居者の方々の服用される薬の内容等を把握するよう努めている。また本人の体調の変化などを常日頃観察し主治医と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方々に衣食住に関わる本人にもできることの支援や各自の嗜好に合わせたクラフト作り等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の買い物やお気に入りの美容院等、本人の希望を取り入れている。又年に数回ほど家族を交えて外出や季節にあった外出をしている。	お天気の良い日には、グループホームの周辺を散歩している。食材の買い物や、入居者の買いたい物がある場合など、一緒に出かけている。年に2回ほどはみんなで出かける機会も作っており、家族にも参加を呼びかけている。	民家が少ない地域ですが、散歩が地域住民とのコミュニケーションを図る機会となれば良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行したり支払い可能な状況であれば本人より支払いをしていただく。希望に少しでも近づけられるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話・手紙を出される方も入居されている。その他の利用者も本人の希望に添った支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の扉のガラスを個室ごとに変えたり木目表札を掛けたりしている。又照明もトイレ前のダウンライトを設置しているなど工夫している。	共用空間には、入居者が過ごしてきた時代が懐古できるような品(蓑、瓢箪、柳行李、古時計、写真集など)を配置している。アイランド型キッチンを採り入れ、五感を刺激するような配慮もある。ソファや畳のスペースがあり、入居者は思い思いの場所でくつろげる。	入居者の安全・安心の生活のために、トイレなどの常時見えない部分の使い方や物の配置などに、今一つの工夫を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキに通じる場所に畳コーナーや円テーブルなどの逃げ空間が用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたタンス・仏壇を持参していただいたり、また古い写真アルバムなどの思い出のある品々を持ってきている	居室には、馴染みの品を持ってきてもらっている。家族の写真、タンス、仏壇、神棚、テレビ、テーブル、いす、ベンチなどを持ち込んでいる。	入居者の身体状況の変化に合わせた環境づくりで、入居者一人ひとりが落ち着いて過ごせる場所となるよう、家族とも話し合いながらすすめていかれることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理に参加しやすいようにアイランド型キッチンを用意しており利用者が自然に参加しやすいように環境に配慮している。		